

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 5日		～ 2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		～ 2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員配置とチーム連携 ・正社員に社会福祉士、作業療法士、保育士を配置し、多職種の専門性を活かした支援を行っている。 ・他教室には言語聴覚士や心理士なども在籍しており、必要に応じて助言や連携を受けられる体制が整っている。 ・非常勤職員も経験豊富な人材が多く、安定した支援提供が可能である。 ・職員同士の関係が良好で、日常的に相談しやすく、チームとして連携しやすい環境が整っているため情報共有が円滑に行われ、支援方針の統一が図られている。	・ケース共有や日々の振り返りを通して、支援方法の統一と質の向上を図っている。 ・困った際にすぐ相談できる体制を整え、安心して支援に当たれる環境づくりに努めている。 ・他教室との専門職との情報共有を行い、支援の幅を広げている。	・専門職と定期的なケース検討を実施し、より専門的な支援体制を強化する。 ・信任職員へのサポート体制を充実させ、チーム力に向上を図る。
2	環境の充実と活用 ・広い支援室を活かし、鬼ごっこやドッジボールなどを大きく使った活動が可能である。 ・ハンモックやボルダリング、バスケットゴールを設置し、楽しみながら感覚統合や体力向上を図ることができる。 ・おままごとコーナーにはソファを設置し、落ち着いて遊べる空間を確保している。 ・学習室を完備し、個別課題や宿題に集中して取り組む環境を整えている。 ・活動的な空間と静かな空間を分けることで、子どもの状態に応じた過ごし方ができる。	・スーパーバイザー、専門職、コーディネーターチーム同席のケース検討を実施し、方針を次回支援計画へ反映。 ・実地研修とオンライン研修を組み合わせ、月2回以上の研修機会を確保。受講履歴と振り返りを記録化。 ・発達障害外来で使う検査の大半を自社実施できる体制を確立。	・年間研修計画を「障害の基礎知識/法令/メンタルヘルスケア/管理者研修」の4領域で編成し、研修と現場での活用を定着させる。 ・困った時の専門家への相談ラインを確保。早期にヒアリング、ケース検討の仕組みを確立している。
3	活動内容の充実・子ども主体の活動 ・食育やおやつ作り、制作やお出かけなど多様な体験活動を取り入れ、子どもの興味関心を広げている。 ・月ごとの活動予定は子供の意見を取り入れながら決定し、主体性や自己決定の力を育てている。 ・個別活動と集団活動をバランスよく組み合わせ、社会性や生活力の向上を支援している。	・活動の選択肢を提示し、子どもが自ら選べる機会を設けている。 ・楽しさの中で成功体験を積めるよう支援内容を工夫している。 ・外出活動を通して社会ルールや公共マナーを学ぶ機会を提供している。	・地域資源を活用した体験活動を増やし、社会参加の機会を広げる。 ・子どもの意見を反映する仕組みを継続し、主体的な活動作りを促進する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の機会の充実 ・事業所内での活動は充実している一方、地域との交流機会はまだまだ十分とは言えず、社会経験の幅をさらに広げる余地がある。	・安全面や移動面への配慮が必要なため、地域交流の実施に慎重な検討が求められる。 ・日々の療育活動を優先する中で、地域との継続的な関係作りの機会が限られている。	・公園や図書館、公共施設などの身近な地域資源を活用し、無理のない範囲で外出活動を取り入れていく。 ・子どもの状況に配慮しながら、地域イベント等への参加を段階的に検討する。 ・社会とのかかわりを通して、子どもの経験の幅を広げていく。
2	空間活用のさらなる工夫の必要性 ・広い支援室や設備を活かした活動ができる一方で、部屋数が限られているため、状況によっては活動の分離や個別対応の空間確保に工夫が必要となる。	・同時帯に複数の活動を行う際、静かな活動と身体活動の環境調整が難しい場合がある。 ・クールダウンや個別対応の為のスペース確保に配慮が必要となる。	・パーティションや家具配置の工夫や、職員室、学習室の活用により、落ち着ける空間を柔軟に確保する。 ・活動時間やグループ分けを調整し、子どもが安心した過ごせる環境づくりを行う。 ・子どもの状態に応じた過ごし方ができるよう、空間の使い方を継続的に見直していく。